

地域医療研修レポート

名古屋第一赤十字病院 研修医

新城市民病院の総合診療科で地域研修をさせていただきました。ご指導賜りました医療スタッフの方々と関わらせていただいた患者さんに感謝申し上げます。

研修を通して、初診の患者さんの診療を多く担当させていただきました。日頃の研修では救急外来以外では診断のついた患者さんの診療に関わることが多く、診断をすることの難しさと面白さを実感しました。解釈モデルなど診断のヒントはいろいろなところに転がっており、総合的にみることの大切さを学びました。これまで検査に頼りがちでしたが、作手診療所では身体診察の有用性を実感し、診察能力をつける必要のあることを痛感しました。再診の外来で患者さんをフォローする機会は初めてで、外来でのマネジメントを通して新たな発見もあり、患者さんの症状が改善した様子を見ることができると嬉しく思いました。

日々の診療の中で自分ができていることとできていないことに気づく機会が多くありました。一人でやってみて実際にこんなに自分ではできなかったのだと日々課題が積もっていくことも多くありました。そのことに気づけたのも、指導医の先生が見守ってくださる中で、できる限り自分でやってみよう促していただけた、丁寧にフィードバックをいただけたおかげだと思います。毎日振り返り、課題を克服していく習慣をこれからの医師生活でもずっと続けていきたいと思いました。また、日々勉強をして地域や人々のニーズに応えられており、目の前の患者さんのニーズに応えられるよう私自身も日々勉強をしていきたいと改めて思いました。名郷先生のEBMに関するお話を含め、日々の診療の中で指導医の先生方が疑問を解決していく過程と一緒に経験させていただくことにより、疑問点にあたったときの調べ方や考え方を一緒に経験でき、今後に役立てられる知恵を得ることができました。

研修を通して、新城市民病院は地域の中で様々な役割を担っている病院であると感じました。治療の場であるときもあれば、看取りの場にも変化する環境でした。そのような中でゴールをどのように設定し、それを本人や家族と共有していくかが重要になっていると感じました。嚥下困難のある患者さんの食事に関する事など難しい問題にあたったときに、どのように考えたらよいか医療倫理の考え方も教わりました。さまざまな職種の方が関わり、家族背景や自宅での様子を詳細に聞き取り、家屋調査などを通して実際に状況を把握されていました。現状を正確に把握して、本人や家族にとって今後の生活をどのような場で快適に過ごせるかを考えて実現していくことは、入院期間中の治療に加えて大切であり、入院期間だけでなく、長期にわたっての生活に影響を与える機会だと感じました。これまで自分が聴取していた生活歴はごく浅かったと気づき、社会的な背景を理解するという本当の意味や方法を学ぶことができました。訪問診療・看護・リハビリ、介護福祉施設や助産所など病院の外での研修の機会も与えていただき、地域の特徴を実際目で学ぶこともできました。貴重な機会をくださりありがとうございました。